

教科	科目	学年			
		単位数	1年	2年	3年
国語	現代国語	7	3	2	2
	古典乙I	5	2	3	-
社会	倫理・社会	2	2	-	-
	政治・本	2	-	-	-
	経済史A	3	-	-	-
	世界史A	3	-	3	2
	地理	3	3	-	-
数学	数学I	5	5	-	-
	数学IIA	4	-	2	2
理科	物理学A	3	-	-	3
	化学A	4	-	4	-
	生物A	3	3	-	-
芸術	音楽I	3	1	1	1
外国語	英語A	8	2	3	3
普通教科目計		55	21	18	16
保健体育	保健体育理論	9	9(公衆衛生2精神衛生1)	9(生理学2精神衛生1)	3(看護学2母子衛生1)
	保健体育実技	3	1(体育理論)	1(体育史)	1(教科教育法)
	普通実技	21	6(徒手・器械・陸上)	7(左に同じ)	8(左に同じ)
	特技専攻校外実技	11(6)	2(球技・格技・水泳)	4(2)(スケート)	5(2)(スキー)
専門教科目計		44	12	15	17
特別教育活動(HR)		9	1	1	1
合計		102(108)	94(96)	94(96)	94(96)

(註) 細部については「後期中等教育審議会」において検討する。

(4) 指導法の改善

[施策設定の理由]

現在の学校体育は、指導要領に示されるとおり、スポーツ教材を中心とする各種の運動を行ない、心身の健全な発達を促し、活動力を高めることにあるが、各種の運動は数多く配列され限られた施設・設備・用具と時間のなかでは、全児童生徒に広く浅く経験させることはできても、各種の運動技能を高めるとともに、より以上の体力づくりを期待するのはむずかしい現状である。文部省においても体力づくりの世論にかんがみ、昭和43年度を目途として、教育課程改定のため審議会を設けて検討がなされている。本県においても、体育指導内容の再検討をなし、指導法の改善をはかり指導の効率を高める必要がある。

[施策の目標]

ア 体育研究指定校の強化推進

小・中・高等学校の体育研究指定校の設置を継続し、その運営を強化し、指導上の問題点